

岩崎会長記者会見の概要

日 時：平成 29 年 8 月 14 日（月）15 時～15 時 40 分

場 所：東京証券取引所ビル地下 1 階 兜倶楽部

（質疑応答）

記者：

投資信託が普及し始めているという感触はあるか。先程、今月の新規設定予定のファンドはつみたて NISA を意識しているものが増えているという話があったが、投資信託を購入するためのハードルが下がっているので、投信の純資産総額が過去最高の水準に向かっているという理解は正しいか。

岩崎会長：

投資信託の残高は過去 2 番目の大きさになっているが、過去最高（2015 年 5 月）と比べると ETF の純資産総額が増加したことが、公募投信残高の増加に寄与していると考えられる。資料「2017 年 7 月の投資信託概況」の「2017 年 8 月設定予定新規ファンド一覧表（速報ベース）」をご覧頂きたい。「買付時手数料（%）」がゼロになっているファンドは、つみたて NISA 対象あるいは DC 専用の投資信託である可能性が高い。つみたて NISA 対象の投資信託の種類は増えているが、つみたて NISA の年間投資上限額や DC の購入額と一般の投資信託の購入額を比べると、後者が圧倒的に大きい。投信の純資産総額が大きくなるにつれて、商品ラインナップも充実してきている感がある。

岩崎会長：

前回の会見の時に皆様に投資信託協会の活動についてお知らせしたいと申し上げたが、本会では、兜倶楽部の記者の皆様を対象に、投資信託・投資法人の現況や課題について、説明会を開催する予定である。この説明会もその一環である。例えば、本会のホームページに資産運用業強化委員会の報告書が掲載されているが、今後対応すべき課題が公表されている。投資信託の併合・償還に係る問題、基準価額の二重計算の問題、基準価額訂正のマテリアリティポリシーの問題、アジア地域ファンド・パスポート (ARFP) の促進等の様々な課題が出ており、本会の活動状況を含めて、こういった点を皆様に伝えていきたいと思っている。また、この勉強会を皆様と議論していく際のきっかけにさせていただければと考えている。本会として議論ができる体制が整ってきたので、皆様から多くの意見を出して頂き、今後、国民の資産形成のツールになる投資信託の発展に貢献できればと考えている。

以 上